



町村自治

4月 2011 平成 23年

● 発行所 青森県町村会 ● 編集発行人 山口 昇 ● 印刷所 長尾印刷(株)
〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号(年4回発行) TEL 017-723-1331 FAX 017-723-1347
ホームページ <http://www.aomori-chousonkai.jp/> E-mail ack@aomori-chousonkai.jp



ほろづき 袈月海岸 たかのさき 高野崎に待ちわびた観光シーズン到来!

津軽半島の北端、津軽国定公園袈月海岸に観光シーズンがやってきました。
晴れた日には北海道や下北半島を見渡すことができる「高野崎」。ダイナミックな景観と磯の香りが出迎えてくれます。

【No. 1190】

ほろづき 袈月海岸 たかのさき 高野崎 いまべつまち 今別町

- 東北地方太平洋沖地震対策関係… 2 ■ 本会定期総会…………… 4
- 優良町村・自治功労者表彰名簿… 6 ■まちづくりへの挑戦 西目屋村…12
- 23年度本会事務分担……………16 ■随想 小鹿今別町長……………18

行くたび、
あたらしい。
青森 AOMORI 森



マスコットキャラクター
「いくべえ」

青森デスティネーションキャンペーン 2011.4.23~7.22

東北地方太平洋沖地震に係る

対策本部を設置

知事に災害復旧に関する課題を説明

県内被災者へ義援金を寄付



▲逢坂会長が町村の災害復旧に関する課題等を三村知事に説明

本会災害対策本部 を設置

本会は、去る三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震による災害に対処するとともに、今後更に拡大すると思われる産業・経済への影響等を踏まえ、町村が行う復旧対策等を支援するため、逢坂会長を本部長とする「青森県町村会東北地方太平洋沖地震災害対策本部」を、三月十四日付けで設置した。

町村の課題を 知事に説明

対策本部の設置に伴い、本会では県内各町村から災害復旧に関する要望内容を取りまとめ、三月十五日、逢坂会長が三村知事に対し、避難住民

平成23年度事業計画などを審議

理事会・支部委員会

本会は二月二十一日の定期総会に先立ち、二月四日、青森市のアップルパレス青森で、平成二十三年第一回理事会を開催した。出席者は、逢坂会長ほか役員町村長九人。

協議事項

- 協議事項1 平成二十三年第一回青森県町村会定期総会次第案並びに案件について
- 協議事項2 決議案について

- 協議事項3 平成二十四年度予算編成及び施策に関する要望運動案について

- 協議事項4 町村長の健康管理研修案について
- 協議事項5 北東北三県町村長中央交流会案について
- 協議事項6 平成二十三年の町村会会長等の選任について

議案及び協議事項は次のとおり。

- 議案第一号 平成二十三年度青森県町村会事業計画案
- 議案第二号 平成二十三年度青森県町村会費案
- 議案第三号 平成二十三年度青森県町村会一般会計予算案
- 議案第四号 青森県町村会常務理事及び職員の給与の特例に関する規程の一部を改正

第一回自治協、生協支部委員会

理事会終了後、引き続き、全国自治協会県災害共済支部並びに全国町村職員生活協同組合県支部は委員会を開催し、二十三年度予算をそれぞれ原案どおり承認、決定し、本会定期総会に報告することとした。議案は次のとおり。

地方交付税総額の復元増額・地域主権改革の推進など決議

永年の功績を称えて全国・県表彰



▲定期総会には町村長をはじめ約40人が出席



▲来賓の三村知事をはじめ、石沢県町村会議長、田辺県総務部長、佐藤県市町村振興課長

本会は二月二十一日、青森市のラ・プラス青い森で定期総会を開催し、平成二十三年度事業計画及び予算などを決定したほか、地方交付税総額の復元・増額など十項目の決議を採択した。また議事に先立ち、全国町村会表彰の伝達及び青森県町村会表彰として自治労者の表彰を行った。

表彰
優良町村、
自治功労者

定期総会には、町村長をはじめ来賓及び被表彰者など約四十人が出席。逢坂会長（平内町長）のあいさつに続いて、表彰を行った。

あいさつの中で、逢坂会長は「二十三年度の政府予算案では、地方交付税が地域活性化・雇用対策費も含めて増額となったというものの、町村の厳しい財政状況は今後も続く。町村が自主的・主体的な地域づくりを進めていくためには、財政基盤の強化が必要不可欠であり、地方交付税の安定的な交付や、一括交付

金での町村への配慮等引き続き、国へ求めていく。これからも力を合わせ、地域の個性を最大限に発揮しながら独自の施策を展開し、住民一人ひとりが「この町や村に住んで良かった」と実感できる町村の実現のために、邁進していく」と述べた。

表彰では、全国町村会表彰として、優良町村の蓬田村並びに中野鶴田町長、工藤南部町長、古川六ヶ所村長、蝦名平内副町長ほか、一般職員百八十四名の自治功労者に表彰状と記念品を伝達した。また、県町村会表彰として、一般職員八十八名の自治功労者に表彰状と記念品を授与した。最後に、被表彰者を代表して蓬田村の古川村長が謝辞を述べた。

議事

二十三年年度予算を 原案どおり決定

表彰終了後、来賓の三村知事が祝辞を述べ、引き続き、逢坂会長が議長となつて議事に入り、平成二十三年度事業計画及び予算など議案三件について審議し、それぞれ原案どおり承認、決定した。

また、吉田副会長（六戸町長）が「交付税率を引き上げるとともに、三位一体改革において大幅に削減された地方交付税総額を復元・増額すること」など十項目の決議を朗読し、満場一致で採択した。
なお、決議の実行運動の方



▲来賓の三村知事が祝辞を述べる

疎化、少子高齢化や経済不況が続く中で、地域経済の活力低下という極めて厳しい状況にある。
こうした中、町村が自己決定・自己責任の原則に基づいた多様で個性的な地域社会を目指すには、財政基盤の充実・強化が不可欠である。
このため、平成二十三年度の会務運営は、県、全国町村会及び関係団体と連携を緊密



▲逢坂会長があいさつを述べる

法については、理事会に一任することとした。
議案及び議決の内容は次のとおり。
○議案第一号 平成二十三年度青森県町村会事業計画案（抜粋）
「昨今の町村を取りまく環境は、急速に進展する過疎化、少子高齢化や経済不況が続く中で、地域経済の活力低下という極めて厳しい状況にある。」



▲決議文を読み上げる吉田副会長

にして、町村自治確立のため、町村財政基盤の強化など町村が抱える諸課題の解決に向けた政務活動を、県内町村の創意と英知を集結しながら積極的にを行う。また、本会の主要事業である町村長の健康維持増進のための健康管理事業をはじめ、町村長並びに町村職員の研究、表彰、町村職員採用試験、法令外負担金の規制会報活動等をこれまで以上に効果的・効率的に実施していく。さらに、共済関係八事業については、公有財産の保全、町村職員の生活安定を図る立場から、市町村に対して、加入・継続を積極的に推進し、もって町村の振興発展と活力ある地域社会の実現に寄与し

決 議

町村は、過疎化、少子高齢化の進行、経済不況が続く中で地域経済の活力の低下、雇用情勢の急速な悪化など、極めて厳しい環境下にある。
しかしながら、住民に最も身近な町村が、将来にわたり自主的・主体的な地域づくりの推進などの重責を担い続けていくためには、税源移譲と偏在性の少ない地方税体系を構築することや地方交付税の増額など、財政基盤の充実・強化が不可欠である。
また、町村は自己決定・自己責任の原則に基づき、創意・工夫に富んだ施策を展開し、住民が豊かさやゆとりを実感できる多様で個性的な地域社会をつくる重要な使命を担っている。
本日の定期総会にあたり、我々町村長は、直面する様々な課題に向けて、ここに決意を新たにして、次の事項を決議し、その実現のために鋭意邁進するものである。

- 1 交付税率を引き上げるとともに、三位一体改革において大幅に削減された地方交付税総額を復元・増額すること
 - 1 真の地域主権改革を強力に推進すること
 - 1 一括交付金は地方の自主性を高め、財政力の弱い自治体に配慮した制度設計とすること
 - 1 T P P 交渉への現状での参加に反対するとともに、農林漁業と農山漁村の再生を図ること
 - 1 戸別所得補償・直接支払は、農林漁業の経営安定と食料・木材自給率向上との整合性並びに財源確保に留意して実施するとともに、食の安全・安心の確保を図ること
 - 1 東北新幹線全線開業効果の継続獲得を図ること
 - 1 町村の道路や生活環境など社会基盤整備に係る公共事業費の必要額を確保するとともに、道路交通ネットワークの整備促進を図ること
 - 1 厳しい雇用情勢の中、雇用・就業機会の創出のため、効果的な雇用対策を推進すること
 - 1 少子高齢化の進行に対応した医療・保健・福祉施策を強力に推進するとともに、地域医療の確保・充実のため医師確保対策を推進すること
 - 1 子ども手当にかかる必要な経費については、全額国庫負担とすること

ていくものとする。
○議案第二号 平成二十三年度青森県町村会会費案
総額は、六百五十八万七千円とする。
○議案第三号 平成二十三年度青森県町村会一般会計予算案
収入支出予算総額を、収入支出それぞれ二億七百六十二万二千元（対前年度比千二百九万九千円、六・二％増）とする。

全国町村会表彰

優良町村・
自治功労者(敬称略)

優良町村

東津軽郡 蓬田村

町村長(三期以上任期毎)

十期 鶴田町長 中野 堅司

四期 南部町長 工藤 祐直

三期 六ヶ所村長 古川 健治

副町村長・収入役・教育長

(在職十二年以上)

平内町 副町長 蝦名 昭彦

一般職の職員

(在職三十年以上)

平内町 畑井伸一、三上勝則、

浜田英世、亀田敦、佐々木悟

笹原日出人、福田正千代、西

谷秀子、柴田育子

外ヶ浜町 青松久

鱒ヶ沢町 齋藤衛、工藤泉、

長谷川優子、今一仁、長谷川

英夫、川浪重治

深浦町 村上讓、秋元和子、

岩谷司、佐藤洋一、七戸暁

藤崎町 幸田紳爾、佐々木盛

男、五十嵐晋、佐々木克治、

藤田伸、久保田整

大鰐町 佐々木志郎、嘉瀬秀

一、山口博之



▲被表彰者を代表し古川蓬田村長(中央)が謝辞を述べる

田舎館村 工藤修市、稲葉明

志

板柳町 川村恵二、鈴木清孝、

佐藤明美、阿部良雄、竹内真

希子、工藤京子、鳴井るみ子、

小松原直子、諏訪宰子、野宮

睦子、小山秀子

鶴田町 神忠彦、工藤彰毅、

山本栄、工藤都貴子、白川浩

司、外崎泰子、白戸うめ

中泊町 熊木さとみ、大川哲

夫、外崎良造、竹谷寛、荒木

あつ子、加藤孝典、五十嵐浩

乃

野辺地町 岩崎俊晴、熊谷正

樹、橋本幸子、杉山修、杉山

悦子、川畑浩子

七戸町 町屋健彦、阿部康江、

築田政光、八幡博光、檜山の

み子、高橋敦子

横浜町 平尾良信、柏谷健児、

前田芳利

東北町 小林茂信、中村恵一、

沼田隆憲、和田勝彦、富岡純

夫、沼山政広、蓬畑裕、榑崎

秀俊、加藤郁子、高田かつえ、

佐々木真喜子、乙供俊彦、蛭

名良子、金沢明子

おいらせ町 松林光弘、澤田

常男

六ヶ所村 佐藤健、黒田徹、

佐藤照光、沼尾楨子、秋田雅

子、橋本大策、村松由美子、

大関貞子、中村由紀子、滝口

玲子

大間町 奈良宏一、菊池憲昭、

小鷹秀子、岩本泰子、福浦栄

子、野崎尚文、金澤圭子、山

田司、松原俊逸、傳法正広、

寺岡耕一

東通村 中村まり子、川口智

子、伊東公子、川端義秋、中

西久美子、菊池英雄、室館真

澄

風間浦村 平野豊、中津朝子、

坂本幸喜

佐井村 福浦岳志、田中潔

三戸町 似鳥博保、和田恵子、

五十嵐孝一、大清水まき子、

小島貢、伊達玉江、山本由起

子、居ヶ内節子、風間やす子

五戸町 川村司、金子尚弘、

川村忠、夏堀悦子、今川雅博、

小渡むつ子、松坂君江、藤村

裕子、亀山力、岩井夏子、川

崎和子、角濱友子、高村はる

み、三浦えり子、宮崎久美子、

大久保淳

田子町 青木憲子、伊藤淳、

岩間則雄、堀田雄、白板真由

美、佐々木悦子

南部町 前澤和男、川村正則、

赤石裕之、岩間まえ子、佐々

木高弘、佐々木真理子、極檀

藤男、佐々木大、澤口浩実

階上町 長根工、上野文生

新郷村 杉村勝司、松森恵理

子

中部上北広域事業組合 山本

くみ子、市ノ渡祐子、天間裕

子、姥名英明、谷川成海、岩

清水敬、金澤伸春

公立金木病院組合 秋元陽子

北部上北広域事務組合 前田

ひとみ、坪孝子、角谷百合子

柏葉修、平尾智志、横浜宮子

西海岸衛生処理組合 吉田正

彦

三戸地区塵芥処理事務組合

谷地美津弥

三戸郡福祉事務組合 林チエ

子、柞木田智子、佐々木明美



▲松風の聞こえる静かな憩いの場「玉松台」

事績の概要

蓬田村は北緯四十一度、東経百四十度四十分位置し、総面積の約八十%が山林です。現在の耕地面積比率は十五%、平地には村人が長い年月をかけてつくりあげた美田が

少子高齢化等の対策としては、妊婦検診のさらなる充実、がん検診の完全無料化、六十五歳以上のインフルエンザ予防接種の助成、新型インフルエンザ予防接種の助成、〇歳から十五歳までの医療費の無料化、障害者の養護と自立できるような支援事業など、子どもやお年寄りや障害者が、住みたくなる地域づくりを指しています。



▲中世津軽の歴史を物語るロマン漂う「蓬田城跡」

広がります。中山山脈から流れる四本の川の豊かな農業用水を利用し、「上磯地方の米蔵」と呼ばれています。しかし、ヤマメの影響も受けやすく、冷害が村を襲ったこともしばしばあり、農家に大きな爪痕を残しました。また、陸奥湾は穏やかで養殖漁業に最適。特にホタテ養殖が盛んで村の重要な産業のひとつになっていきます。平成十三年度より村の人口増加・定住を目的に、宅地分譲地の販売をしており、人口の減少にはどめをかけています。更には、平成二十二年度より、新たに村営住宅の建設をし、過疎脱却を目指しています。

村の南は、青森市。国道、J R線が村を南北に貫き、国道二八〇号線バイパスも平成二十二年十一月に全線開通しました。そして同年十二月には、東北新幹線も全線開業し、新青森駅までは、車で二十分ほどで着きます。これを契機に村の発展のため、新幹線効果を最大限に利用しながら、村特産物のピーアールや地域産業の振興、地域の活性化を図りながら、村づくりを進めていかなければなりません。村は未来へ向かって確実に変わっていきます。

優良町村
東津軽郡 蓬田村

人口 3,300人
面積 80.63km²
産業別就業人口構成比
1次 32.6% 2次 23.9%
3次 43.5%

青森県町村会表彰
自治功労者(敬称略)

一般職の職員

(在職二十五年以上)

- 平内町 田中正美、松山秀子、坂本省二、木村秀、工藤みどり、江戸恵美子、平泉ふみ子、田中美記江
- 今別町 島中一、平山治門、佐渡慶剛
- 外ヶ浜町 越田祐悦、伊藤勝幸
- 鱒ヶ沢町 平田達也、齊藤豊実、栗林輝生、開米恵子
- 深浦町 神馬昭仁、堀内博志、藪崎修子
- 西目屋村 折戸孔子、工藤茂雄、三上博文
- 大鱧町 畑山宏、原子信悦、須藤尚人、小川行造、岩崎光鶴
- 田町 松山照子
- 中泊町 齋藤明、藤田康久、柏崎裕司
- 野辺地町 川代弘
- 七戸町 米田春彦、渡部喜代志
- 横浜町 鳥山真、杉山和彦
- 東北町 阿部雅彦、沼村輝彦、向井光夫、天間一、和田真紀子
- 大間町 番匠一雄、田中一義
- 東通村 中野成子
- 三戸町 宇藤光子、堀内恵子、上明戸一人
- 五戸町 山下智鶴子
- 田子町 酒井千鶴子、境澤久美子、関口政子、荒木田和栄
- 南部町 黒坂正子、東野成人、坂本康浩、柳久保正弘、川村一城、木村ひな子、田中洋子、増田くみ子
- 階上町 寫守利明、日影百合子、西山圭一、濱浦孝子
- 新郷村 本間由美子、村下光江、沢口くみ子、佐藤泰司、工藤勝志
- 中部上北広域事業組合 中野州子、石田清子、相坂映子、小倉文子、柴山絹江
- 公立金木病院組合 白川由美子、本荘由加里、古川千鶴子
- 北部上北広域事務組合 今野純子、田荷美紀子、織笠尚美、齋藤千穂子、田中結子、柏崎高雄、小川史代子、高橋俊一
- 西海岸衛生処理組合 浜谷久美
- 鱒ヶ沢地区消防事務組合 中村敏範

豪雪及びホタテガイ高水温被害を訴え

特別交付税の配分を求める

本会は二月七日（月）東京都内で、二十二年度特別交付税に係る総務省への説明を実施した。

が町村の新たな負担となつて、特別交付税による国の財政支援を求め実施した。

これは、今冬の豪雪により町村の除排雪作業に係る費用が増大していることや、昨年夏期の異常高水温により陸奥湾内のホタテガイに大規模なへい死が発生し、母貝確保などの再生産対策や漁業者への共済・金融対策に要する経費

説明には、本会の逢坂会長ほか、三村県知事及び大川平川市長が参加し、総務省の岡本総務事務次官、椎川自治財政局長、平嶋大臣官房審議官（財政制度・財務担当）に面談のうえ、特別交付税の配分を強く求めた。

お知らせ

「東北新幹線全線開業効果活用事業への助成」について

昨年12月、東北新幹線が全線開業したことを契機として、各町村はその効果を最大限に活かすため様々な事業を実施されており、本会では22年度において町村が観光客等の増大を図るため、自然、歴史、文化、物産等町村の多彩な魅力を県内外に発信するための事業に係る経費への助成事業を実施いたしました。

同事業は、23年度においても引き続き行いますので、下記ご参照のうえ、本会助成事業の積極的なご活用をお願いいたします。

○主な助成内容

- 1 助成対象事業・助成金額
(1) 県外実施：1年につき50万円を限度に実費助成
(2) 県内実施：1年につき30万円を限度に実費助成
- 2 助成対象経費
謝金、旅費、印刷製本費・複写費、賃借料、通信運搬費、共同事業に関する負担金、その他事業を行う上で本会会長が必要と認める経費

○申請期限

平成23年5月31日（火）までに、別に定める事業計画申請書を本会へ提出願います。

○その他

詳細は、本会業務課（電話：017-723-1331）までお問い合わせ願います。

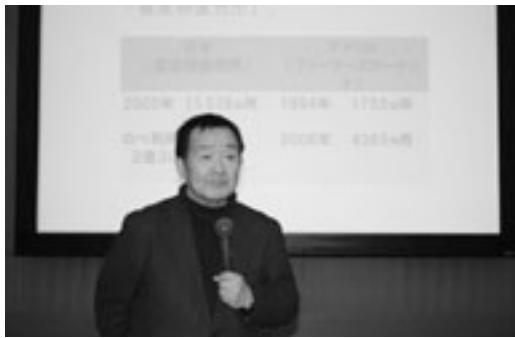
農山漁村の

自立・再生を

農山漁村活性化研修会

本会に事務局を置く県町村農業農村振興対策協議会、県市町村林野振興対策協議会、全国山村過疎地域振興連盟支部は、二月二十八日、青森市のアップルパレス青森で、三団体共催による農山漁村活性化研修会を開催した。研修会には、町村長ほか県市町村の担当者等約四十名が出席した。

本研修会は、地域の価値ある自然や文化を継承しながら、農山漁村の自立・再生を目指すことを目的に昨年度から実



▲希望の地としての限界集落と題し結城氏が講演

施しているもので、今回で二回目。

研修では、民俗研究家の結城登美雄氏が「希望の地としての限界集落」と題し講演した。結城氏は、過疎地集落で発生している耕作放棄地や森林の荒廃等の現状を踏まえ、新潟県上越市中ノ俣集落を紹介。人口九十人、五十四世帯、平均年齢七十歳超の小さな村が、可能性の場所、希望の村に生まれ変わるまでの若者たちとの実践的な試みを紹介した。また、地域づくりには同じ願いと悩みを持つ個人と家族が協力して皆の力で実現解決にあたる必要があると、限界集落を負の遺産と捉えず、次代を生きる若者たちの新しい暮らしの器として捉え直した時に、その可能性が開けてくることや、世界的な食糧危機が叫ばれる中、カロリーベースの品目別食料自給率のバランスが非常に良い青森県が、日本を支える食の大切さを全国に発信して欲しいなどと述べた。さらに、地域が支える農業として鳴子の米プロジェクトが実践しているC・S・Aの事例を紹介した。

報告書を取りまとめる

電算システム検討会

電算システムの共同利用に関する検討会（座長・太田平内総務課長、事務局・本会）では、このたび検討会でのこれまでの調査、研究の概要を取りまとめた報告書を作成した。

同検討会は、本会正副会長所属町村及び郡町村会の担当課長及び担当者で構成され、昨年八月の設置以来、事例調査研修、事業者説明会など計四回の検討会の開催のほか、県内町村における電算業務の実態調査など、調査研究を進めてきた。

報告書では、これまで同検討会が実施した取り組みの概要をはじめ、本県における共同利用を具体的に検討する場面の課題等を整理した。また、まとめには、同検討会を通して各町村の課題やその対応における考え方等の共通認識が図られたとともに、今後、継続した取り組みが期待されるといった構成員からの意見等が盛り込まれている。

広報紙総合の部

「広報おいらせ」が特選

23年県広報コンクール

特選 おいらせ町「広報おいらせ」



準特選 三沢市「広報みさわ」



本会に事務局を置く県広報広聴協議会は、二月二日、青森市の県共同ビルで平成二十三年県広報コンクール審査会を開催した。

同コンクールは市町村の広報活動の向上を目的に開催し



▲広報コンクール審査会の様子

審査委員

東奥日報社 編集局次長兼整理部長	佐藤 秀樹
デーリー東北新聞社 青森支社長	中村 悟志
陸奥新報社 青森支社長	渋谷 浩
青森放送 報道制作局次長兼報道制作部長	山本 恒太
青森テレビ 報道制作局次長兼報道部長	菊谷 浩志
青森朝日放送 報道制作局局長	山本 修嗣

平成23年青森県広報コンクール審査結果

広報紙部門（総合の部）

特選	おいらせ町「広報おいらせ」 12月号※
準特選	三沢市「広報みさわ」 11月号※

広報紙部門（市部）

入選	青森市「広報あおもり」 11月15日号
佳作	弘前市「広報ひろさき」 11月15日号
奨励賞	八戸市「広報はちのへ」3月号
奨励賞	十和田市「広報とわだ」11月号

広報紙部門（町村部）

入選	外ヶ浜町「広報そとがはま」 12月号
佳作	六ヶ所村「広報ろっかしょ」 8月号
奨励賞	中泊町「広報なかどまり」 9月号
奨励賞	東北町「広報とうほく」10月号

写真部門（一枚写真の部）

入選	六ヶ所村「広報ろっかしょ」 8月号※
佳作	十和田市「広報とわだ」10月号
奨励賞	平川市「広報ひらかわ」5月号
奨励賞	中泊町「広報なかどまり」 9月号
奨励賞	おいらせ町「広報おいらせ」11月号

写真部門（組み写真の部）

入選	弘前市「広報ひろさき」 9月1日号※
佳作	十和田市「広報とわだ」10月号
奨励賞	八戸市「広報はちのへ」10月号
奨励賞	おいらせ町「広報おいらせ」3月号
奨励賞	六ヶ所村「広報ろっかしょ」 4月号
奨励賞	五戸町「広報五戸」9月号

映像部門

入選	外ヶ浜町 「グリーンちゃんの グリーンハート外ヶ浜探検」※
佳作	八戸市 「地域医療の充実を目指して」

※印は、日本広報協会主催の全国広報コンクールへの推薦作品

ているもので、県内市町村から広報紙十七点、写真二十九点、映像二点の応募があった。六名の審査委員による厳正な審査の結果、広報紙総合の部でおいらせ町の「広報おいらせ」（22年12月号）が特選に、三沢市の「広報みさわ」（22年11月号）が準特選となった。

上位入賞作品は、日本広報協会主催の全国広報コンクールに県代表として推薦し、四月に総合審査が行われ、入選作品が決定される。

なお、全国広報コンクールのウェブサイトに部門には本県から三点を応募した。入賞作品は左記のとおり。

町村職員採用試験

22年度実施状況と23年度実施について

22年度実施状況

町村等職員（一部事務組合等含む）の任用事務の公平・効率化を図るため、本会が町村等の要請に基づき実施する町村職員採用試験の二十二年

度実施状況は下表のとおり。

実施日は、日本人事試験研究センターが定めた七月二十五日（日）、九月十九日（日）の二回の全国統一試験と、その他の期日に実施した個別試験。

実施団体は、二十九団体（二十六町村三事務組合）、総受験申込者数は七百九十三人となり、昨年度に比べ七団体、百八人の増となった。

23年度実施申込み受付中

二十三年度に町村職員採用試験の実施を申込みする団体は、本会指定の期日までに、所定の様式にて本会へお知らせ願います。実施申込みや試

験実施科目など、ご不明な点は本会業務課（017-723-1331）にお問い合わせ願います。

平成23年度町村職員採用統一試験の概要

○試験期日・職種

- ・ 第一回（上級試験）
平成二十三年七月二十四日（日）
- ・ 第二回（中・初級試験）
平成二十三年九月十八日（日）

○場所

- 第一、二回とも青森市内

○実施申込方法

各団体に既にご案内している「平成二十三年度町村職員採用試験実施申込書」を、**四月二十八日（木）**までに本会へ送付願います。

○その他留意事項等

- ・ 受験者数の報告
第一回（上級試験）は六月十七日（金）、第二回（中・初級試験）は八月十二日（金）までに、受験者名簿を本会へ提出願います。

平成22年度町村職員採用試験受験申込者数

（単位：人）

団体名	職 種	上 級		中 級						初 級		合計
		行政	土木	保健師	一般	保育士	社会福祉	保健師	栄養士	看護師	一般	
1	平内町	36	-	-	-	-	-	-	-	4	21	61
2	今別町	4	-	-	-	-	-	-	-	-	5	9
3	外ヶ浜町	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	27
4	蓬田村	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	15
5	深浦町	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	19
6	藤崎町	75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75
7	田舎館村	-	-	-	-	-	-	-	-	47	-	47
8	板柳町	27	-	-	-	-	-	-	-	5	7	39
9	鶴田町	18	-	-	3	-	-	-	-	2	-	23
10	中泊町	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
11	野辺地町	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	43
12	七戸町	-	-	-	-	-	-	-	-	45	-	45
13	六戸町	18	-	-	-	-	-	-	-	-	3	21
14	横浜町	-	-	-	-	-	-	-	-	11	3	14
15	東北町	29	-	-	-	3	-	-	-	26	-	58
16	おいらせ町	60	-	-	8	-	-	-	-	9	-	77
17	六ヶ所村	10	-	-	-	-	-	-	-	-	4	14
18	大間町	5	-	-	-	-	3	3	-	10	-	21
19	東通村	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
20	佐井村	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	10
21	三戸町	10	-	-	-	-	-	-	2	9	-	21
22	五戸町	28	3	-	-	-	-	-	-	-	-	31
23	田子町	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
24	南部町	14	-	-	-	8	-	-	-	11	-	33
25	階上町	7	3	4	-	-	-	-	-	-	-	14
26	新郷村	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2
27	三戸地区環境整備事務組合	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
28	鯉ヶ沢地区消防事務組合	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	13
29	津軽広域水道企業団	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	12
合 計		391	6	4	12	8	3	3	2	305	56	793

・ 公募方法
受験者公募の手続きは各団体が行うこととし、名簿提出期日に間に合うよう公募をお願いいたします。受験票は各団体が作成し、試験当日に受験者が必ず持参するよう周知徹底を図ってください。

・ 試験当日の実施運営
例年通り、試験実施団体担

当者の御協力をいただき対応いたします。

・ 担当者事前説明会
試験係員となる試験実施団体担当者を対象とした事前説明会を七月上旬に予定しています。試験実施申込みのあった団体に後日ご案内します。

・ 経費負担
試験問題の作成及び採点に

係る経費は、団体申込みの科目料金を申込人数に応じて負担いただきます。

・ 個別試験
統一試験日以外の期日の個別試験の実施は、本会は問題用紙等の提供・採点のみ行います。実施団体は、試験日の一カ月前までに本会にご連絡ください。

平成23年度町村会関係主な行事予定

会議等の名称	日 時	場 所
町村会 正副会長会議 町村会 正副会長・理事・監事・顧問合同会議	6月上旬	町村会役員室
町村会 臨時総会	6月17日(金) 14時	県共同ビル「大会議室」
市町村総合事務組合 議会臨時会	6月17日(金) 14時30分	町村会「会議室」
町村会 政務調査委員会	6月17日(金) 14時50分	青森市内
県選出国議員に対する重点施策説明	6月または7月予定	青森市内
平成24年度政府予算編成及び施策に関する要望運動	6月または7月予定	東京都内
町村会 監査会	7月中旬予定	町村会役員室
町村会 理事会	8月上旬予定	町村会役員室
町村長健康管理研修	8月23日(火)～25日(木) 1日目 定期総会 15時 2日目 健康管理研修 3日目 半日ドック	野辺地町 まかど温泉富士屋ホテル 青森市・総合健診センター
町村会 理事会	10月予定	町村会役員室
町村長行政調査研修	未定	未定
法令外負担金等委員会	11月予定	町村会役員室
県選出国議員との懇談会	11月29日(火) 17時	東京都・ホテルニューオータニ
全国町村長大会	11月30日(水) 正午	東京都・NHKホール
北東北三県町村長中央研修会(秋田県・岩手県町村会との合同開催)	11月30日(水) 15時	東京都・ホテルニューオータニ
北東北三県町村長中央交流会(秋田県・岩手県町村会との合同開催)	11月30日(水) 17時	東京都・ホテルニューオータニ

青森県町村長等名簿 平成23年4月1日現在 町村数30町村(22町8村)

区 分		町 村 長	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長
東郡	平内町	逢坂雄一	S16. 9. 18	4	23. 11. 14	蝦名昭彦
	今別町	小鹿正義	S 6. 2. 18	3	25. 10. 12	阿部義治
	外ヶ浜町	森内勇	S13. 3. 2	2	25. 4. 23	
	蓬田村	古川正隆	S22. 6. 2	4	25. 11. 8	
西郡	鱒ヶ沢町	東條昭彦	S16. 4. 15	1	25. 12. 26	長内仁
	深浦町	吉田満	S28. 9. 9	1	24. 12. 20	本田満生
中郡	西目屋村	関和典	S42. 2. 24	2	26. 2. 25	
南郡	藤崎町	小田桐智高	S35. 7. 21	3	25. 4. 23	浅利一
	大鰐町	山田年伸	S27. 3. 11	1	26. 7. 21	
	田舎館村	鈴木孝雄	S12. 2. 10	2	24. 11. 17	
北郡	板柳町	舘岡一郎	S18. 3. 4	3	23. 4. 29	福田幸盛
	鶴田町	中野撃司	S 4. 11. 7	10	26. 8. 20	山本一郎
	中泊町	小野俊逸	S17. 7. 29	4	25. 4. 23	
上北郡	野辺地町	亀田道隆	S17. 11. 30	2	23. 10. 26	金澤年男
	七戸町	小又勉	S24. 1. 2	2	25. 4. 23	大平均
	六戸町	吉田豊	S25. 3. 28	5	24. 1. 27	
	横浜町	野坂充	S26. 1. 31	2	24. 12. 11	新渡喜広
	東北町	斗賀壽一	S19. 7. 2	1	25. 4. 23	蛭名鉦治
	おいらせ町	成田隆	S26. 2. 4	1	26. 3. 25	西館芳信
下北郡	六ヶ所村	古川健治	S 9. 5. 28	3	26. 7. 6	戸田衛
	大間町	金澤満春	S25. 3. 9	2	25. 1. 18	菊池武利
	東通村	越善靖夫	S17. 1. 7	4	25. 4. 12	吉澤俊弘
	風間浦村					
三戸郡	佐井村	太田健一	S26. 11. 25	3	25. 4. 21	
	三戸町	竹原義人	S25. 11. 28	1	24. 12. 15	藤田昭仁
	五戸町	三浦正名	S29. 1. 1	3	23. 6. 26	鳥谷部禮三郎
	田子町	松橋良則	S18. 10. 24	2	25. 7. 9	
	南部町	工藤祐直	S30. 5. 22	4	26. 2. 11	坂本勝二
	階上町	浜谷豊美	S31. 8. 23	2	25. 12. 23	久保和子
新郷村	須藤良美	S15. 3. 29	2	25. 5. 28	田島正美	



子どもを産み育てやすい環境づくり

総合的な子育て支援対策を実施

23年度よりさらに拡充

を活用しています。

各種対策による効果

平成二十一年には、合計特
殊出生率1・85（全国1・
37、青森県1・26）を記
録し、就学前の乳幼児数は平
成十九年を最低値とし、その
後、乳幼児数は増加傾向とな
り少子化対策に一定の成果を
示しました。

23年4月より

施策を拡充・発展

そうした中、村ではさらに
取組みを前進させるため、二
十三年四月より、次の施策を
実施します。

①児童福祉施設利用者負担全
額助成

西目屋村は、安心して子どもを産み育てやすい環境づく
りを実現するため、「西目屋村子育て支援対策本部」を設置
し、高校生までの子ども医療費無料化、3歳児以上保育料
無料化、妊産婦健診の無料化などの施策を実施しています。

子育て支援に関する方針

西目屋村では、安心して子
どもを産み育てやすい環境づ
くりを実現するため、平成二
十年四月に「西目屋村少子化
対策推進本部」を設置し、ま
た二十二年十一月には、名称
を「西目屋村子育て支援対策
本部」に変更し、複雑化する
社会の中で村民の多様な子育て
支援ニーズに対応するため、
子育てに優しい環境を整える
ことに重点を置き、子どもの
健全な成長を支援すること
はもちろん、育児支援者も心

身ともに健康で、子育てがで
きるよう、積極的な取り組み
を進めています。

具体的な支援策について

具体的な事業の詳細は、次
頁のとおりです。

財源確保について

総合的な子育て支援対策に
係る財源は、行財政改革によ
る削減効果を村民サービスと
して転換しています。例えば、
保育所や給食センター民営化
などにより、削減できた部分

西目屋村の総合的な子育て支援対策

●村民の負担ゼロ（完全無料化）事業（9件）

支援策	先駆的施行・開始年度
①こども医療費無料（18歳まで）※入院費・食事代も含む	東北初・H20～（中学校3年生まで） <u>H23～</u>
②3歳児以上の保育料無料	県内初・H21～
③たしろ保育園の入園児の無料送迎	
④妊婦健診無料化（項目・上限なし）※医師が妊婦にとって必要と判断する各種検査が無料	全国初・H21～
⑤産婦健診無料化（項目・上限なし）	全国初・H21～
⑥子宮頸がんワクチン接種事業完全無料※H23.1月分より国補助金を利用し継続実施	県内初（個別）・東北初（集団）・H22.6月～
⑦チャイルドシート無料貸し出し	H12～ H18～無料化
⑧インフルエンザ予防接種費用無料※中学生以下、75歳以上、非課税世帯は接種無料、その他は自己負担1,000円	H21～（全村民無料） H22～（一部完全無料）
⑨児童福祉施設利用者負担全額助成（0歳～満20歳未満まで）	<u>H23～（新規）</u>

●支援・補助事業（5件）

支援策	先駆的施行・開始年度
①高校生奨学補助金（1人付 年額10万円/年）	S57～、H21増額
②大学生・高校生奨学育英資金（高校18万円/年 大学等36万円/年）	H12～
③子宝育英奨励金『第2子出産祝金15万円 小学校入学10万円』『第3子出産祝金20万円 小学校入学15万円』『第4子出産祝金20万円 小学校入学17万円』『第5子出産祝金30万円 小学校入学20万円』	H12～ <u>H23～</u>
④ヒブワクチン予防接種補助金支援事業（1回分）H23.2月分より国補助金を利用し実施回数全て無料として継続実施	県内初・H22.6月～
⑤母子健康手帳カバー及び出産祝い（食器セット）プレゼント	

●定住促進住宅

整備：平成17年 6戸、平成19年 8戸、平成21年 8戸
子ども数の推移：

	こどもの数（人）	世帯数（世帯）
H19. 4月	15	14
H21. 4月	30	22
H22. 4月	32	22



（0歳～満20歳未満まで）
※利用者負担内容・施設利用料、食費

目的 児童福祉施設等を利用する児童が健やかに育ち、家族が子育てに喜びを感じる事ができるように支援し、児童及び家族の福祉増進を図ります。

②こども医療費無料化の拡充（18歳まで拡大）

目的 これまでも中学校三年生まで、医療費、入院費（食事含む）は無料としてきたが、18歳まで拡大し、さらに安心して暮らせるように支援します。一般的に、高校生は体力があり、風邪などの一般的な疾患に罹ることは少ないが、

スポーツによる事故が多いこともあり、スポーツ支援として、万が一怪我をした場合もしっかりと行政でサポートします。

③子宝育成奨励金の拡充（第3子から第2子へ拡大）

目的 子どもを育てることは多額のお金がかかります。第三子から第二子への拡大は、子どもが一人しかいない夫婦が、「子どもひとり育てるだけでもお金が厳しく、なかなか第二子を考えることができない」との声により、「よし、二人目を考えよう」という気持ちを行政が引き出せるよう支援します。

この拡充により、二十三年度に該当する第二子は、出産祝金一名、小学校入学三名となります。

村では子育て支援対策を重点政策として、引き続き取り組むこととしています。

※西目屋村の子育て支援対策に関するお問い合わせは、西目屋村役場住民課までお願いします。【0172（85）2111】



問い合わせ先 樺とサポテンまつり実行委員会
TEL 017-755-2118
夜越山クロスカントリー実行委員会事務局
TEL 017-755-2565

5月3日(火・祝日)、5月4日(水・祝日)の2日間にわたり、夜越山森林公園及び夏泊半島椿山において「第43回樺とサポテンまつり」が開催されます。

初日には、県内各地から選手が集う「夜越山クロスカントリー大会」も行われ、大自然の夜越山で健脚を競い、心地よい汗を流せるとあって大変好評を頂いております。

まつり期間中には、そのほかにも様々なイベントを企画してお待ちしておりますので、桜満開の夜越山森林公園、風光明媚な景色を望める椿山に是非、ご来場ください。

「第43回樺とサポテンまつり」開催!

いまが旬!
平内町

東津軽郡



問い合わせ先 ブナの里 白神公社
TEL 0172-81-5050

西目屋村の郷土誌「白神学」が創刊されました。

白神学は津軽ダム建設に伴い移転、水没する砂子瀬・川原地区の記録保存調査をもとに創刊され、第1巻は定価1,500円(税込み)、村内観光施設や県内書店のほか、首都圏の書店でも販売されています。今後は目屋の古道やマタギなどをテーマに第3巻まで刊行される予定です。詳しくはブナの里白神公社ホームページをご覧ください。

HP: <http://www.kumagera.net/index.html>

創刊 白神学

いまが旬!
西目屋村

中津軽郡



問い合わせ先 道の駅こどもり「ポントマリ」
TEL 0173-27-9300

「道の駅こどもり」は、冬期間休業しておりましたが、4月下旬にオープンします。同駅は、国道339号線の海岸沿い、通称「竜泊ライン」にあるきれいな景色が自慢の駅です。

ドライブで竜飛岬を目指すお客様、海の幸が豊富で、町自慢の物産が多数販売されている道の駅へ、どうぞお立ち寄りください。

道の駅こどもり 4月下旬オープン!

いまが旬!
中泊町

北津軽郡



問い合わせ先 野辺地町観光協会
TEL 0175-64-9555

4月29日(金)、第32回ホタテ駅伝大会が野辺地愛宕公園で開催されます。

競技は、一般・高校、中学校(男子)、女子、小学校、オープンの部で行われ、監督1人、選手6人、補欠3人のチーム編成となります。

桜が咲き誇るコースでさわやかな汗を流し、その後、会場内でお花見を楽しんでみてはいかがでしょうか。

申込期日は、4月13日(水)正午まで。参加料については、野辺地観光協会にお尋ねください。

「ホタテ駅伝大会」参加者募集

いまが旬!
野辺地町

上北郡

いま旬!

六戸町

さくのへまち

上北郡

旧渋沢邸を巡る「渋沢浪漫ツアー」がはじまります!

日本経済界の父と呼ばれた渋沢栄一と、その一族の私邸であった旧渋沢邸。和洋折衷の貴重な建築物であり、様々な歴史の舞台となった旧渋沢邸をこの春、渋沢コンシェルジュと巡ります。明治、大正、昭和の時代へタイムスリップ、浪漫あふれる異空間をお愉しみください。

■平成23年4月1日(金)～ ①9:00～
②17:00～(1回約45分)
■大人1,000円 小人500円(1回15名まで)



問い合わせ先 古牧温泉青森屋
TEL 0176-51-2121

いま旬!

六ヶ所村

ろっかしょむち

上北郡

「11ろっかしょたのしむべ!」フェスティバル

5月14日(土)、15日(日)「11ろっかしょたのしむべ!」フェスティバルが大石総合運動公園で開催されます。

県内では、春一番に打ち上げられる花火大会。レーザー光線と音楽と花火の共演はとても幻想的です。

特設ステージでは、キャラクターショー、お笑い芸人ショーやビンゴ大会など、子供から大人まで楽しめるイベントが盛りだくさんです。



問い合わせ先 六ヶ所村役場商工観光課
TEL 0175-72-2111

いま旬!

東通村

ひがしらむち

下北郡

厳しい自然と風土から生まれた本格そば焼酎 祈水「ろごりや」

東通村産のそばと米を原料とし、1億5千年前のジュラ紀の地層の湧水で造った本格焼酎です。そば本来の個性を活かし、口あたりが良く、繊細かつフルーティーな味わいで、そばならではの香りが楽しめます。ロックやストレート、そば湯による“そば湯割り”や“お湯割り”にも最適です。

ぜひ一度ご賞味ください。



問い合わせ先 東通村商工会
TEL 0175-48-2081

いま旬!

三戸町

さんのへまち

三戸郡

人気上昇中! B級グルメ 「三戸ひつつみ」

わかりやすくいえば「すいとん」ですが、この地方では「ひつつみ」と呼びます。

ダシのきいたしょうゆ味の汁に、うどん粉を練った具を入れて煮た料理。手で引っ張って伸ばし、食べやすい大きさにつかんで切るため、この名がついたとか。

基本は鳥肉のダシですが、季節により川がになどもダシ使い、野菜をたっぷり入れて煮込む青森県南地方のソウルフードです。



問い合わせ先 三戸町役場
TEL 0179-20-1111

● 共済契約できる自動車

- あなたの所有する
- あなたと同一世帯に属する親族（同居の親族）の所有する

- 自家用普通・小型乗用自動車
- 自家用軽四輪自動車
- 自動二輪車 ● 原動機付自転車

● 共済掛金と共済金額

共済金額	用途及び車種区分	共済掛金額（年間）				
		自家用普通・小型乗用 小型貨物車(660cc超)	自家用軽四輪乗用 貨物車(660cc以下)	自動二輪車 (125CC超)	原動機付自転車 (125CC以下)	
A型	対人賠償	30,000円	19,000円	17,000円	12,000円	
	対物賠償					無制限
	自損事故傷害共済					1,000万円
	限定搭乗者					1,500万円 500万円
B型	対人賠償	33,000円	21,000円	20,000円	14,000円	
	対物賠償					無制限
	自損事故傷害共済					1,500万円
	限定搭乗者					1,000万円

※無共済等自動車傷害共済・他者運転特約も自動付帯。 ※自賠償保険と共済金の一括払も実施しています。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

町村生協の自動車共済にご加入の方のみ、車両共済(保険)に加入できます

- 町村生協の自動車共済で過去3年間無事故で、新たに車両共済(保険)に加入する場合、新規契約と比較して

40%割引（9等級）からスタート！

- 一括払いでご契約の場合は、さらに **5%割引！**
- 保険料分割払（12回）も選択可能です。
- ロードサービスも無料でサービス！

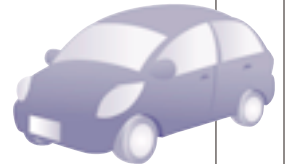
いつでもご加入いただけますので下記までお問い合わせ願います。

問合せ先 全国町村職員生活協同組合青森県支部

青森県町村会総務課〔共済事業〕 TEL017(723)1331

自動車共済

万一の事故に備えを！



課・職名・氏名	主要担当業務
総務課 参事 澤田 憲郎 総括主幹 (総務課長事務取扱) 原子美香子 主幹 上原俊一郎 主事 成田 聖子 主事 蝦名 清香 事務員 福眞由華子 臨時事務手 〔共済事業〕 総括副参事 小松田 真 副参事 澤田 博美 臨時事務手 工藤 希美 臨時事務手 柿崎多佳子	(総務関係) 人事、規約・諸規程の改廃、予算、関係諸団体等との連絡調整、各業務の統合調整、総会その他の諸会議、総務厚生委員会、顧問弁護士、表彰、軽自動車税の移動、文書の收受・発送、各団体の予算経理、現金・有価証券の出納・保管、決算、物品の出納・保管、他の所管に属しないこと (共済関係) 公有建物・自動車共済、職員火災・自動車共済、任意共済保険、団体定期保険、総合賠償補償保険、個人年金共済、消防設備資金
業務課 課長 土岐 昌二 副参事 吉本 知己 主査 大坂 謙 臨時事務手 五十州 あき	事業計画、町村行財政の調査、政務調査委員会、法令外負担金の規制、要望・請願、町村長等・町村職員の研修会、会報「あおもり町村自治」、町村職員採用試験、町村の振興

青森県町村会

常務理事兼
事務局 長

山口 昇

青森県町村会等事務分担

(平成23年4月1日現在)

確かな安心を！

住宅火災共済



安い掛金で大きな補償を

●共済契約できる物件

- あなたの所有する居住用建物、または、その建物内にある動産
- あなたと同一世帯に属する親族が所有し、かつ、あなたが現に同居している建物または、その建物内にある動産

●共済掛金と共済金額

共済掛金（年額）は共済契約1口（10万円）につき60円です。

契約額の最高限度は、600口で、6,000万円が限度です。

共済契約の最高限度			
区分	口数	共済金額	共済掛金
建物のみの場合	400口	4,000万円	24,000円
動産のみの場合	200口	2,000万円	12,000円
建物と動産を併せた場合	600口	6,000万円	36,000円

風水雪害特約制度

風水雪害特約制度は、風水雪害による損害について、火災共済契約に任意に付加することにより共済金を支払う特約制度です。特約を付加していない場合、風災、水災又は雪災による損害は、損害額が50万円以上の場合、損害の程度に応じ給付され、全損の場合では100分の10又は450万円のいずれか低い額の給付ですが、特約に加入することにより、火災共済契約の風水雪害共済金に加算して風水雪害特約共済金を損害額の50%又は火災共済契約額の50%のいずれか少ない額を限度に支払います。（ただし、風水雪害共済金と特約共済金の支払合計額が3,000万円を超える場合、3,000万円が限度となります。）特約共済掛金は、一口10万円につき50円です。（火災共済契約と同額を特約共済金額とします。）



課・職名・氏名		主要担当業務
課長	高橋 淳一	消防団員等公務災害補償等に関する事務、非常勤職員公務災害補償等に関する事務、自治会館の管理・運営に関する事務、市町村税等の滞納整理に関する総務部門の事務
副課長	伊藤 義章	
主任幹事	細川 仁	市町村税等の滞納整理に関する事務
主任幹事	平野 法泉	
主任幹事	加藤 奨	
主任幹事	八桁 公和	
参事	澤田 憲郎	
参事	原美香子	
参事	上原俊一郎	
参事	成田 聖子	

青森県市町村総合事務組合

事務局長 山口 昇

<p>発展に関する調査・研究、県市町村農業農村振興対策協議会、県市町村林野振興対策協議会、県広報広聴協議会、全国山村過疎地域振興連盟県支部、発電関係市町村全国協議会県支部</p>

こしか
小鹿

まさよし
正義

今別町長



随想

第9話

プロフィール

町議会議員、町教育長。
現在3期目、80歳。

北海道新幹線の

開通と今別町

「財政危機からの脱出」

今別町は、津軽半島の北端に位置し、青函トンネル本州側の入口の町です。

平内町から龍飛岬までの街道を「ブルーロード」と呼んでいますが、特に津軽国定公園奥月海岸高野崎からの景観は、右に下北半島、左に龍飛岬、前方の津軽海峡に見える姿は北海道。夏の夕暮れ時に見る風景は、まさに「絶景」であります。

この自然豊かな故郷の町長に就任し、三期目となりますが、平成十九年の新聞・テレビで、「今別町の財政は破綻の瀬戸際」との報道は広く皆様もご存じかと思えます。

永年に渡る赤字も改善の兆しが見えたところに、小泉内閣の三位一体改革が進められその結果、連結収支比率はマイナス十八・八%で最悪の状

況となり、健全化団体に転落することが確実と見込まれたものでした。

このような中で、赤字解消の対策を町民・議会・職員と何度も協議を重ねた結果、理解と協力が得られたことにより思い切った改革が断行できました。

幸いに、平成二十一年度は待望の黒字となり、連結収支比率もプラスの七・三五%と大きく改善され安堵したものです。

町民の協力なくしての改革は不可能でありましたが、この辛い時期を忘れることなく、町民の思いを大切にし不退転の決意で行政を進めねばと考

えているものです。
さて、昨年十二月四日には、青森県民の悲願であり、夢にまで見た東北新幹線が全

線開通となり、青森市を中心として東青地域・下北地域及び津軽地方一帯に、計り知れぬ発展が期待されています。

現在、我が町にはJR東日本津軽線が三厩まで運行していますが、町内には四つの駅があり、更にJR北海道津軽海峡線の「津軽今別駅」もあります。

平成二十七年末には、北海道新幹線が函館まで開業し、そして過疎の小さな田舎町に仮称「奥津軽駅」が誕生します。

こんな小さな町に、新幹線駅が設置されるとは信じ難い方も多いと思いますが、これには一寸した理由があります。

新幹線と貨物車両が青函トンネルを通過するために、大変重要なことは時間調整であります。新幹線は、時速二百四十キロ、貨物列車は約百二十キロ、その速度差を調整する重要な駅となります。

更に、十年後には札幌までの延伸が予定されており、その時には新幹線・貨物列車とも本数が多くなること予想され、青函トンネルの通過は増々困難となり、その

解決策として、JR北海道で検討している「トレイン・オン・トレイン」構想があります。

私達は、仮称「奥津軽駅」開業と、近い将来実現する「トレイン・オン・トレイン」を見据え、特産品の開発など町づくりの全力で取り組んでまいります。



▲仮称「奥津軽駅」設置が予定されている津軽今別駅付近